

② 結果及び考察

結果は、表-18に示した。

無処理群では、各区とも卵巣の発達はみられなかった。しかし、a区的眼柄切除群は眼柄切除から、1週間目の9月10日にステージⅡがみられたが、それ以上発達せず2週間目より卵巣は吸収に向かった。b区も2週間目からステージⅡに発達したが、3週目にやはり、吸収に向かった。c区は1週間目から発達しはじめ、2週間目にはステージⅢまで発達したがⅣには至らず、3週間目から吸収に向かった。

このように、前試験では卵の発達がまったくみられなかった90g程度のウシエビが、眼柄切除することにより、ある程度、卵巣が発達した。しかし、完熟までは至らなかった。

その原因は、前にも述べたようにこのサイズではまだ親エビとして小さいのであろうと思われる。脱皮も良く行なわれており、a区、b区では1尾づつ眼柄の再生もみられた。

表-18 養殖エビの照度差による母エビ養成試験Ⅱ（眼柄切除）

試験区	a (400 L X)				b (1,200 L X)				c (4,000 L X)							
	眼柄切除		無処理		眼柄切除		無処理		眼柄切除		無処理					
月日	ステージ				ステージ				ステージ							
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
9/3	3*1				4				3				2			
9/10	1	1			4				3				4			
9/13	1	1			4				2*2				4			
9/17	1*3				5				1 1				4			
9/20	1				5				1 1				4			
9/27	1				4*4				1*5				5			
10/1	1				4				1				3*7			
10/4	1				3*8				1				3			
備考	*1 10/6 1尾へい死				*4 1尾へい死				*2 1尾へい死(とび出し)				*7 2尾へい死			
	*3 1尾再生				*8 1尾へい死				*5 1尾再生				*6 1尾へい死			
平均水温	29.2 °C								28.5 °C				28.5 °C			

4 ウシエビの産卵例

中城湾で漁獲されたウシエビで、産卵直前と思われるステージⅣの個体が6例見つかり、それを500ℓパンライトに収容したところ、4例がその日の夜産卵した。

このことから、沖縄沿岸においてはウシエビの産卵が天然でも行なわれていることが初めて確認された。

産卵状況については眼柄切除エビも含めて表-19に整理した。